

教育目標：すすんで学ぶ子ども

協力して責任を果たす子ども

健康で心豊かな子ども（重点目標）



地域運営学校（コミュニティ・スクール）

七小だより



八王子市立
第七小学校
令和8年(2026年)
10月15日(木)

ハ
王
子

あなたの
あな
たの
み
も、
あ
る
け
る
ま
も。

令和7年度八王子市学校保健会学校保健 優良校
令和6年度八王子市学校保健会学校保健 努力校

「できる喜び」「分かる楽しさ」～学力調査の結果から分かること～

校長 ●●●●

今年度も八王子市内の公立小学校では「全国学力・学習状況調査(6年生)」「八王子市学力定着度調査(第4学年～第6学年)」の2つの学力調査を実施いたしました。概要は以下の通りです。

	学力調査名	対象	調査内容	調査時期
各種 学 力 調 査	全国： 学力・学習状況調査	小学校第6学年 ※中学校第3学年	◎教科に関する調査（国語・算数） ◎生活習慣や学習環境に関する質問紙調査	令和8年4月23日 (実施済)
	東京都： 児童・生徒の学力向上を図るための調査	※ 東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査(第4学年～第6学年)」は、 2年前より中止となりました。		
	八王子市： 学力定着度調査	小学校第4学年～ 第6学年 ※中学校第1学年～ 第3学年	◎前年度までに学習した内容 (国語・算数) ●八王子市の学力定着度調査は2回実施します。	第1回：(実施済) 令和8年5月13日 第2回：(実施予定) 令和7年12月10日

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領 全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意が必要である。

各教育委員会、学校等においては、調査結果を十分活用して、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における学習指導の充実や学習状況の改善に役立てることが重要である。調査結果の分析にあたっては、教科調査の平均正答数、平均正答率のみならず、個々の問題や領域等に着眼して学習指導上の課題を把握・分析したり、学習指導要領の趣旨を踏まえた取組、ICT機器の活用、挑戦心・自己有用感・幸福感等に係る質問調査の結果と合わせて総合的に分析、評価したりすることを通じて、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

(令和8年度 全国学力・学習状況調査報告書 「調査結果の解釈等に関する留意事項」より：文部科学省)

「学力(又は「確かな学力」)」と呼ばれるものの要素として次のようなことが考えられます。

- ① どの学習にも必要な基礎的・基本的な知識や技能（基礎的・基本的な知識や技能）
- ② 知識や技能を活用し、考えたり、表現したりする（思考力・判断力・表現力）
- ③ 自分から進んで学ぼうとする意欲（学ぶ意欲）

学力調査の結果は学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。上記で示した①～③に記載した通り、子供たちの学力(基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、学ぶ意欲)は多岐にわたります。第七小学校ではワークテストやノート指導、作文、感想文、プリント、授業中の取組状況等、様々な方法・場面を活用し児童の学力状況を把握するよう努めています。

学力調査で大切なことは、学力調査によって明らかになった学習指導上の課題を把握・分析し、児童の学習改善や学習意欲の向上につながるように、学校（組織）としての改善策を考えることだと思います。

子供たちの学力は、小学校第1学年から第6学年、さらにその先まで連続して育まれるものです。一部の教員、一部の学年、あるいは小学校の取組だけで成果を上げることはできません。児童と家庭と学校の三者が一体となり「継続して努力する」ことが大切だと考えています。特に、①の「基礎的・基本的な知識・技能」の定着に関しては、既習学習に繰り返し取り組んだり、前学年の学習内容に遡って復習したりすること等、家庭学習を習慣化することが有効になります。

第七小学校では今後も児童の「学力向上」を図るための手立てを検討し実践してまいります。

1 全国学力・学習状況調査（第6学年） 令和8年4月23日実施

令和8年4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果は、国語・算数の平均正答率が全国の平均正答率とほぼ同じまたは項目によっては全国の平均正答率を上回る結果となりました。この結果を踏まえ、各教科の考察を以下にお伝えします。

<算数>

分 類	区 分	R 8 平均正答率 (%)				R 7 平均正答率 (%)			
		本校	差(国)	東京都	全国(公立)	本校	差(国)	東京都	国(立)
全 体		58	+1.6	63	56.4	58	± 0	64	58
学習指導要 領の領域	数と計算	61.6	+0.5	68.0	61.1	61.3	▲1.0	68.3	62.3
	図形	51.8	▲3.5	63.4	55.3	58.8	+2.6	61.2	56.2
	測定	80.7	+2.6	82.9	78.1				
	変化と関係	46.2	+5.1	49.9	41.1	58.1	+0.5	64.9	57.6
	データの活用	50.2	+1.6	53.9	48.6	63.5	+0.9	67.6	62.6
評価の観点	知識・技能	61.6	+1.5	67.1	60.1	65.2	▲0.3	70.9	65.5
	思考・判断・表現	46.1	+0.7	51.1	45.4	49.5	+0.2	54.4	48.3

令和8年度の調査結果を見ると本校は全国平均と比較し各領域で大きな差はないことが分かりました。普段の授業の習熟度別指導では、3学級5展開（または4学級6展開）で取り組んでいます。児童の実態に合わせ、少人数指導を展開しています。また放課後算数教室（主として希望者）では、今年度1年間を通して17回実施する予定です。1学期は既に実施しました。地域の学習ボランティアの方々や習熟度別指導担当の教員等が児童をサポートしました。今後も基礎的・基本的問題をもとに類似問題を準備して繰り返し復習に取り組み、基礎的・基本的学力の強化を図っています。

<国語>

分 類		区 分	R 8 平均正答率 (%)				R 7 平均正答率 (%)			
			本校	差(国)	東京都	国(立)	本校	差(国)	東京都	国(立)
全 体			62	+1.1	65	60.9	64	▲2.8	70	66.8
学習指導要領 の内容	知識及び 技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.2	+0.4	70.4	66.8	70.8	▲6.1	77.9	76.9
		情報の使い方に関する事項	51.4	▲0.9	56.7	52.3	62.5	▲0.6	66.9	63.1
		我が国の言語文化に関する事項					84.4	+3.2	83.8	81.2
	思考力・ 判断力・ 表現力等	話すこと・聞くこと	67.0	+1.2	70.0	65.8	59.4	▲6.9	69.9	66.3
		書くこと	49.1	+3.4	50.4	45.7	69.8	+0.3	72.4	69.5
		読むこと	67.0	+1.1	68.8	65.9	54.2	▲3.3	61.0	57.5
評価の観点		知識・技能	61.9	▲0.1	65.8	62.0	72.1	▲2.4	76.6	74.5
		思考・判断・表現	61.9	+1.8	64.1	60.1	60.4	▲3.4	67.1	63.8

令和8年度の調査結果を見ると本校は全国平均と比較し各領域で大きな差はないことが分かりました。令和7年度は8区分中6区分で全国平均を下回りましたが、令和8年度は8区分中5区分で全国平均を上回りました。令和8年度は「話すこと・聞くこと」の項目が、令和7年度と比較し大きく成果をあげました。令和7年度と令和8年度の本校と全国を比較すると全国平均との差が算数同様、縮小傾向にあることが分かりました。

令和7年度に全国平均との差が拡大した「思考・判断・表現」が差は縮小し、令和8年度は全国平均を上回る結果となりました。令和7年度の結果を受け、各担任や専科担当等の教員が授業後の一言感想、ワークシートのまとめ、日記、感想文・作文等の書く活動を意図的に設定したり、自分の考えを表出し相手に伝えたり、友達の意見を読んだり・聞いたりする活動を積極的に取り入れた成果だと考えます。

令和8年度は、全校朝会での学校長の講話を聞きメモすることや教室に戻り思い出しながらメモに書く活動を取り入れて実践しています。また学校長が全ての学年・学級の児童の書いたメモに目を通し、図書室前に掲示することで、児童の意欲喚起を図っています。日常的に「書く活動」に取り組むことで「書く力」を育成してきた成果が表れました。



朝食を毎日食べている

(単位：%)

R 8	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
第七小	75.7	9.3	10.3	2.8
東京都(公立)	83.7	9.9	4.7	1.4
全国(公立)	83.1	10.2	4.9	1.6

毎日、同じくらいの時刻に寝ている

(単位：%)

R 8	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
第七小	25.2	48.6	22.4	3.7
東京都(公立)	38.7	42.4	15.5	3.0
全国(公立)	40.5	42.3	14.3	2.5

毎日、同じくらいの時刻に起きている

(単位：%)

R 8	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
第七小	45.8	43.9	7.5	2.8
東京都(公立)	55.3	35.2	7.5	1.4
全国(公立)	55.9	34.8	7.5	1.3

自分には、よいところがある

(単位：%)

R 8	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
第七小	42.1	49.5	6.5	1.9
東京都(公立)	46.9	39.1	9.3	4.4
全国(公立)	43.6	42.0	9.8	4.3

普段の生活の中で幸せな気持ちになることが
ある

(単位：%)

R 8	よくある	ときどきあ る	あまりない	全くない
第七小	57.9	33.6	7.5	0.9
東京都(公立)	55.5	36.8	6.3	0.7
全国(公立)	54.7	37.8	6.1	0.7

国語の授業の内容はよく分かる

(単位：%)

R 8	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
第七小	37.4	43.0	15.0	4.7
東京都(公立)	40.0	41.8	13.1	4.4
全国(公立)	36.1	45.4	13.6	4.2

算数の授業の内容はよく分かる

(単位：%)

R 8	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
第七小	45.8	35.5	14.0	4.7
東京都(公立)	47.6	34.1	12.1	5.4
全国(公立)	41.9	35.6	15.1	6.8

英語の勉強は好きだ

(単位：%)

R 8	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
第七小	31.8	19.6	22.4	24.3
東京都(公立)	37.4	27.7	19.1	15.0
全国(公立)	37.8	28.9	19.0	13.7

➡「朝食を毎日食べている」の肯定的評価は約85%で、約15%の児童が朝食をとらずに登校しています。朝食は昼食までのエネルギー源です。朝食は毎日、食べることが大切です。

➡「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」の肯定的回答は約74%で「毎日、同じくらいの時刻に起きている」の肯定的回答は約89%でした。生活リズムを整えるためにはできるだけ同じ時刻に寝て、同じ時刻に起きることが大切です。「早寝、早起き、朝ごはん」です。

➡「自分には、よいところがある」の肯定的回答は約91%でした。否定的回答は約8%でした。本校の児童は全国や東京都の結果と比較しても自尊心・自己肯定感が高く、自己有用感を感じていることが分かります。たてわり班活動・委員会活動等における成果だと考えます。否定的回答がゼロになるよう今後も様々な取組を検討します。

➡「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」の肯定的回答は約91%、否定的評価は約8%でした。

自分の居場所があり、自分を認めてくれる仲間や教職員がいて、「分かった」「できた」と思える学習や体験をし、毎日、安全・安心で、楽しい学校生活を送ることができていること。些細なことにも喜び、感動する心や繊細な気持ちをもつ児童がたくさんいることが嬉しいです。

➡「国語の授業はよく分かる」と肯定的回答をした児童は約80%、「算数の授業はよく分かる」と肯定的回答をした児童は約81%でした。「英語の勉強は好きだ」と肯定的回答をした児童は約51%でした。高学年になると学習内容も難しくなる中、国語・算数の学習内容の肯定的評価(分かる)がそれぞれ約8割以上でした。本校教員の指導力・授業力等が評価され、嬉しく思います。英語は約半数の児童が否定的評価でした。今後の課題です。

第七小学校の教員は常に「分かる楽しさ」「できる喜び」を児童に味わわせるため日々、授業研究や教材研究に取り組んでいます。「分かった」「できた」の声をたくさん聞くことができるよう、これからも指導方法の工夫改善を図ります。

3 児童質問紙（意識調査）：良好な結果及び課題等のある項目（全国学力・学習状況調査：第6学年）

人が困っているときは進んで助ける（単位：%）

R 8	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
第七小	45.8	43.9	9.3	0.0
東京都(公立)	45.5	46.2	6.3	1.1
全国(公立)	47.3	45.4	5.6	0.9

人の役に立つ人間になりたい（単位：%）

R 8	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
第七小	73.8	23.4	2.8	0.0
東京都(公立)	69.7	25.5	3.2	1.2
全国(公立)	70.8	25.0	2.9	1.0

自分はPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができる（単位：%）

R 8	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
第七小	48.6	33.6	12.1	2.8
東京都(公立)	54.3	26.7	8.2	3.2
全国(公立)	49.5	29.6	10.0	3.8

自分はインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができる（単位：%）

R 8	当てはまる	どちらかと言え ば当てはまる	どちらかと言え ば当てはまらない	当てはまらない
第七小	62.6	22.4	9.3	0.9
東京都(公立)	61.2	24.1	5.0	1.5
全国(公立)	59.4	25.5	5.7	1.8

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる（単位：%）

R 8	当てはまる	どちらかと言え ば当てはまる	どちらかと言え ば当てはまらない	当てはまらない
第七小	43.9	41.1	8.4	4.7
東京都(公立)	35.9	35.4	19.2	9.2
全国(公立)	33.9	36.7	20.0	9.0

将来の夢や目標をもっている（単位：%）

R 8	当てはまる	どちらかと言え ば当てはまる	どちらかと言え ば当てはまらない	当てはまらない
第七小	58.9	26.2	9.3	3.7
東京都(公立)	55.8	24.7	11.5	7.3
全国(公立)	58.6	23.2	10.8	6.8

いじめは、どんな理由があってもいけない（単位：%）

R 8	当てはまる	どちらかと言え ば当てはまる	どちらかと言え ば当てはまらない	当てはまらない
第七小	80.4	15.9	2.8	0.0
東京都(公立)	78.2	17.3	2.7	1.0
全国(公立)	81.1	15.1	2.1	0.8

➡「人が困っているときは進んで助ける」の肯定的回答した児童は約90%でした。「相手を思いやる」「支える」「サポートする」等、学校は集団生活であることを理解し、学び合い・認め合い・高め合える仲間のよさを理解しています。

➡「人の役に立つ人間になりたい」の肯定的回答した児童は約97%でした。学級での係活動・当番活動、児童会活動等におけるキャリア教育の取組・成果がきちんと出ています。嬉しいです。

➡「ICT機器で文章を作成することができる」の肯定的評価は約82%でした。情報活用能力や文章作成能力は高いです。様々な場面でのICT機器の有効的な活用を目指し、第七小学校ではICT機器活用の研修会を定期的に開催し教員のスキルアップを図っています。

➡「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の肯定的評価は約85%でした。東京都：約71%、全国：約71%と比較すると、第七小学校の児童の評価はかなり高いことが分かります。様々な機会を通して「相談できる大人」の存在を伝え、一緒に考えてきた成果です。

➡「将来の夢や目標をもっている」の肯定的評価は約85%でした。自分自身を客観的に見たり、目標とする人物を見付けたりできるよう、道徳・学級活動・キャリア教育等を通して将来や夢について語れる児童を育成します。

◎「いじめは、どんな理由があってもいけない」と肯定的回答した児童、96.3%でした。「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と否定的評価をした児童は、2.8%でした。「当てはまらない」と回答した児童は、「0」でした。「健康で心豊かな子ども」の育成は第七小学校の重点目標です。相手の気持ちを考えた言動や行動をとること、自分が言われて嫌なことは相手にも言わないこと等を子供たちに伝えていきます。

全校児童で取組んだ「ふれあいメッセージ(昇降口廊下に掲示)作成」、小中合同で取組んだ「はちおうじっ子サミット」、学校長講話による「八王子いのちの大切さをともに考える日」、全校朝会・学級指導・道徳等、様々な機会を通じて「いじめは絶対に許さない」という強いメッセージを児童や保護者・地域の方々に発信してきました。「いじめはどんな理由でもいけない」という回答が100%になるよう今後も指導を継続します。

4 児童質問紙（意識調査）：良好な結果及び課題等のある項目（全国学力・学習状況調査：第6学年）

学校に行くのは楽しいと思いますか（単位：％）

R 8	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
第七小	45.8	41.1	9.3	1.9
東京都(公立)	48.8	36.7	9.4	4.4
全国(公立)	48.0	37.7	9.6	4.1

先生は良いところを認めてくれる（単位：％）

R 8	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
第七小	42.1	47.7	6.5	2.8
東京都(公立)	52.4	38.2	6.5	2.4
全国(公立)	53.4	38.0	6.1	2.1

先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる（単位：％）

R 8	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
第七小	33.6	43.0	18.7	3.7
東京都(公立)	42.9	40.7	11.2	3.5
全国(公立)	49.0	38.3	8.7	2.5

学校の授業以外に1日当たり勉強する時間(学習塾・家庭教師含む)

R 8	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	全くしない
第七小	13.1	19.6	19.6	28.0	13.1	5.6
東京都(公立)	24.1	12.2	22.5	22.6	13.0	4.8
全国(公立)	10.8	11.1	28.3	29.1	14.5	5.7

学校が休みの日に1日当たり勉強する時間(学習塾・家庭教師含む)

R 8	4時間以上	3～4時間	2～3時間	1～2時間	1時間より下	全くしない
第七小	5.6	3.7	9.3	16.8	27.1	25.2
東京都(公立)	17.3	5.2	7.9	16.9	27.0	14.2
全国(公立)	6.3	3.3	7.5	21.9	32.7	16.0

友達関係に満足している（単位：％）

R 8	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
第七小	62.6	28.0	7.5	1.9
東京都(公立)	60.1	29.9	7.0	2.2
全国(公立)	62.7	28.4	6.3	1.8

地域や社会をよくするために何をすべきか考えている（単位：％）

R 8	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
第七小	18.7	57.9	21.5	1.9
東京都(公立)	30.7	47.3	17.2	4.7
全国(公立)	31.9	48.2	15.9	3.9

➡「学校に行くのは楽しい」における肯定的評価は約 87%でした。東京都(85.5%)や全国(85.7%)と比較しても高い評価であることが分かります。児童の小さな変化を敏感に捉え、全校児童が毎日、安全に安心して、楽しく学校に通うことができるようこれからも全教職員で児童を見守ります。

➡「先生は良い所を認めてくれる」の肯定的評価をした児童は約 90%でした。第七小学校は児童と教員と関係が良好であると評価できます。

➡「先生は分かるまで教えてくれる」の肯定的評価は約 77%でした。否定的評価は約 23%でした。

児童は「分かるようになりたい」「できるようになりたい」と思っています。児童の意欲や要望に十分にこたえることができるよう、授業改善・教材研究等に取り組めます。

➡ 学校の授業以外で、1日に学習する時間を確保できていない児童がいることが分かります。年度当初、保護者会等を活用し『10分×学年+10分』の家庭学習の時間を確保する取組のご協力をお願いしました。学校でも児童に働きかけます。ご家庭でも、児童と平日の家庭学習の時間を改めて確認し、家庭学習の習慣化の定着をお願いしたいと思います。

➡「友達関係に満足している」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えている」の肯定的回答はそれぞれ約 91%と約 77%でした。友達と過ごす時間は大切です。円滑な人間関係は学校生活・社会生活を営む上で重要です。

学級の係活動、たてわり班活動、委員会活動等のキャリア教育、仲間と一緒にやり遂げる嬉しさ・達成感・満足感等、自尊感情を高め、自己有用感を醸成できるよう、様々な教育活動の中で育成します。地域や社会をよくするために自ら働きかけられる児童を育成します。

■今回の意識調査から「朝食を毎日食べている」と回答した児童が約 85%、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている・起きている」の肯定的評価は、それぞれ約 74%、約 89%でした。大多数の児童は毎日、朝食を食べ、リズムある生活を送っていることが分かりました。保護者の皆様が家庭環境を整えてくださっている成果だと思えます。ご協力に感謝いたします。「早寝・早起き・朝ごはん」。児童が毎日、安全に、安心して、楽しい学校生活を送ることができるよう、これからも家庭と学校の連携を図りたいと思います。

学校の授業以外で、1日に学習する時間を確保できていない児童がいることが課題です。年度当初、保護者会等を活用し『10分×学年+10分』の家庭学習の時間確保の協力をお願いしました。学校でも児童に働きかけます。ご家庭でも児童と平日の家庭学習の時間を再確認し、家庭学習習慣化の定着を促進したいです。

A 学校の授業以外に1日当たり勉強する時間（学習塾・家庭教師含む）

		3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	全くしない
第七小	R4	13.3	13.3	25.6	34.4	10.0	3.3
	R5	14.3	9.2	29.6	25.5	15.3	6.1
	R6	19.0	9.5	22.6	26.2	19.0	3.6
	R7	18.5	7.4	33.3	19.8	14.8	6.2
	R8	13.1	19.6	19.6	28.0	13.1	5.6

B 学校が休みの日に1日当たり勉強する時間（学習塾・家庭教師含む）

		4時間以上	3～4時間	2～3時間	1～2時間	60分未満	全くしない
第七小	R4	5.6	6.7	11.1	21.1	42.2	13.3
	R5	10.2	4.1	11.2	12.2	45.9	16.3
	R6	15.5	0.0	10.7	19.0	42.9	11.9
	R7	13.6	4.9	12.3	21.0	23.5	24.7
	R8	5.6	3.7	9.3	16.8	27.1	25.2

Aの表を見ると2時間以上勉強している児童（3時間以上と2～3時間の合計）は令和4年から26.6%→23.5%→28.5%→25.9%→32.7%と令和8年度までは大きな変化はなく、令和8年度は増加しました。また30分以上2時間未満（1～2時間と30分～1時間の合計）の児童は、令和4年から60.0%→55.1%→48.8%→53.1%→47.6%と、約5割を推移しています。

令和8年度における児童の内訳をみると、30分～1時間学習する児童の割合（28.0%）が一番多く、1時間～2時間学習する児童の割合と2時間～3時間学習する児童の割合（19.6%）が同率で2番目に多いことが分かります。本校は『10分×学年+10分』の家庭学習の時間を目標としています。第6学年の家庭学習の時間の目標は約70分で、第6学年の児童は実際にこの基準に向かっていることが分かります。家庭学習の習慣が付いてきていることが分かる反面、全くしないと回答した5.6%の児童には課題があります。短い時間でも家庭学習を習慣付けられるよう家庭との連携がこれまで以上に重要になります。

Bの表では（単純に比較することはできませんが…）「全くしない」と回答した児童が令和4年度から13.3%→16.3%→11.9%→24.7%→25.2%と増加傾向にあります。時間を決めて、毎日、学習する習慣を付けることが大切です。「（令和8年度）普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームする時間は除く）」を調べてみました。令和8年度の調査で4時間以上が32.7%、3～4時間が17.8%、2～3時間が22.4%、1～2時間が10.3%で、全体の約8割（83.2%）を占めています。ご家庭における児童の生活時間（学習、ICT活用等）について、児童と保護者の方と一緒にもう一度見直してみるのも大切だと思います。

C 自分には、よいところがある

		当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
第七小	R4	41.1	36.7	14.4	7.8
	R5	45.9	42.9	11.2	0.0
	R6	46.4	46.4	3.6	3.6
	R7	55.6	34.6	8.6	1.2
	R8	42.1	49.5	6.5	1.9

Cの表を見ると「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童は令和4年度から77.8%→88.8%→92.8%→90.2%→91.6%と、増加傾向にあります。

自尊感情や自己有用感を高めることは第七小学校の教育活動でも特に大事にしている取組です。「自己有用感」とは人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる自己に対する肯定的な評価のことです。学習、学校生活、クラブ活動、異学年交流（たて割り班活動）、友達との関わり、学校行事等、様々な取組を通して「自己有用感」を育成しています。これらの活動はキャリア教育にも通じています。

第七小学校の全児童が「自己有用感」を醸成させ、「自分自身に自信」をもち、自尊感情を高めることができるよう意図的・計画的に指導していきます。学習や行事等に取り組む際、児童自身に目標や工夫する点、努力する点等を考えさせ、その基準に沿ってどこまで達成できたのかを評価し「認める」という場面を増やすことで「自己有用感」や「自尊感情」を醸成させたいと考えています。

5 八王子市：学力定着度調査（算数） 第1回（4・5・6年生） R8年5月13日実施

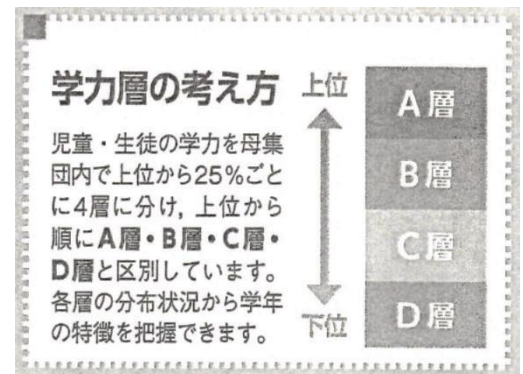
➔ 1学期に実施された学力調査の結果をもとに、成果・課題・対策を掲載します。

【R8年度 4年生 市内学力調査結果 算数科】

教科	教科総合			基礎			応用		
	七小	市平均	差	七小	市平均	差	七小	市平均	差
算数	68.9	67.1	+1.8	76.3	75.7	+0.6	53.5	49.0	+4.5

【平均正答率】

- ◎ 『教科総合』では市の平均よりも1.8ポイント、
『基礎』では市の平均よりも0.6ポイント
『応用』では市の平均よりも4.5ポイント、
それぞれ上回っている。
➔ 算数科の学習全体的に学力の定着が見られる。
特に、応用についてはよい傾向が見られている。

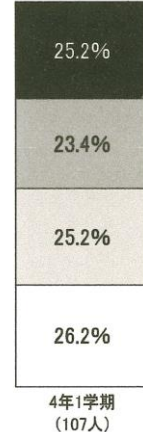
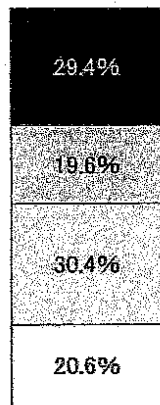


【学力層の推移】

* 4年生は、今回初めての学力調査のため、R7年度の4年生（現在の5年生）の結果と比較した。

R8年度 4年1学期 市内学力調査結果

R7年度 4年1学期 市内学力調査結果



- ◎ A層の児童が、昨年度よりも、4.2ポイント増加している。
△ B層の児童が、昨年度よりも、3.8ポイント減少している。
△ C層の児童が、昨年度よりも、5.2ポイント増加している。
◎ D層の児童が、昨年度よりも、5.6ポイント減少している。

【結果から明らかになった成果・課題】

- D層の割合が減少し、A層の増加が見られるため、学力が身に付いている児童が増加していることが分かる。一方で全体としてはB・C層が多いため基礎問題の定着が必要である。引き続き、習熟度別算数指導等で対策問題に取り組み、基礎・基本を定着させていく。

【算数科における普段の取組み】

- 学習の進度に応じて、既習事項の定着を図るために、プリントを活用したりミライシード等の学習支援ソフトを使用したりしている。
- 授業を行う際に、単元の学習に関連性のある既習事項前を確認する時間を設け、学習をすすめられるように、単元計画や授業展開を工夫している。

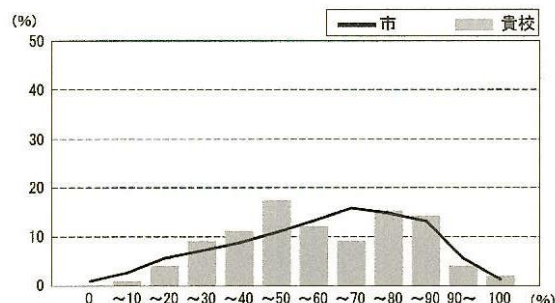
【R8年度 5年生 市内学力調査結果 算数科】

教科	教科総合			基礎			応用		
	七小	市平均	差	七小	市平均	差	七小	市平均	差
算数	58.0	58.8	▲0.8	63.3	64.7	▲1.4	45.7	45.1	+0.6

【平均正答率】

- △ 『教科総合』では、市の平均よりも0.8ポイント下回っている。
- △ 『基礎』では、市の平均よりも1.4ポイント下回っている。
- 『応用』では、市の平均よりも0.6ポイント上回っている。
- ➡ 平均正答率では、全ての項目で目標値を上回った。『応用』の問題の方が、『基礎』よりも上回っている。

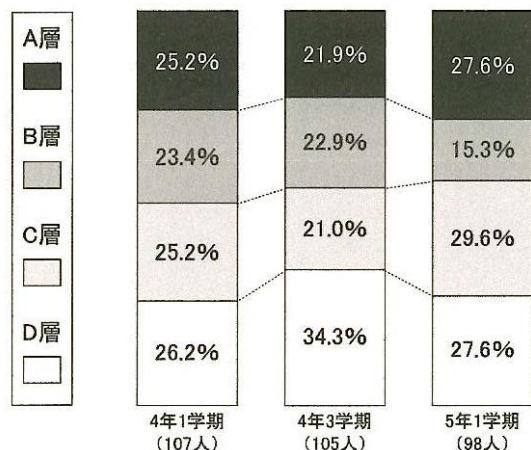
■ 分布グラフ（正答率）教科総合



【学力層の推移】

■ 学力層の推移（同一母集団比較）

市を母集団とした学力層



- ◎ A層の児童が4年生3学期よりも5.7ポイント増加している。
- △ B層の児童が4年生3学期よりも7.6ポイント減少している。
- △ C層の児童が4年生3学期よりも8.6ポイント増加している。
- D層の児童が4年生3学期よりも6.7ポイント減少している。

【結果から明らかになった成果・課題】

- 『平均正答率』では、『応用』で市の平均を上回った。また、4年生3学期よりA層の割合が増加し、D層の割合が減っている。習熟度別（5展開）で行っている算数科の学習により、児童の実態に合わせた授業展開を行っていることが、効果的であると考えられる。
『応用』において、市の平均よりも+0.6ポイントであることから、問題を読み解き、基礎・基本を活用する力が向上している。
一方、『基礎』においては、市の平均よりも-1.4ポイントであることから、既習事項の確実な習得が課題となる。そのために、今後も繰り返し基礎・基本の問題に取り組んでいきつつ、家庭と連携して、宿題でも取り組んでいく。

【算数科における普段の取組み】

- 学習の進度に応じて、既習事項の定着を図るために、ドリルやプリントを活用したり、ミライシード等の学習支援ソフトを使用したりしている。
- 授業を行う際に、単元の学習に関連性のある既習事項を確認する時間を設け、学習をすすめられるように、単元計画や授業展開を工夫している。

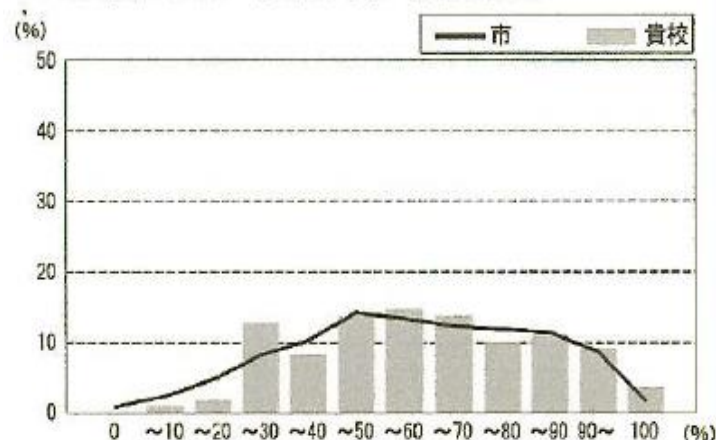
【R8年度 6年生 市内学力調査結果 算数科】

教科	教科総合			基礎			応用		
	七小	市平均	差	七小	市平均	差	七小	市平均	差
算数	58.9	56.7	+2.2	65.3	63.0	+2.3	40.5	38.5	+2.0

【平均正答率】

- 『教科総合』では、市の平均よりも2.2ポイント上回っている。
- 『基礎』では、市の平均よりも2.3ポイント上回っている。
- 『応用』では、市の平均よりも2.0ポイント上回っている。
- ➡ 全ての項目で市の平均を2.0ポイント以上上回っている。『教科総合』『基礎』どちらも平均正答率が50%を超えた。

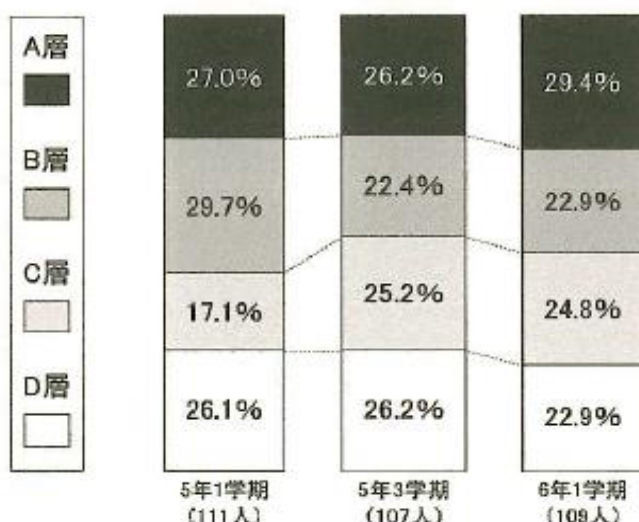
■ 分布グラフ（正答率）教科総合



【学力層の推移】

■ 学力層の推移（同一母集団比較）

市を母集団とした学力層



- ◎ A層の児童が5年生3学期よりも3.2ポイント増加している。
- B層の児童が5年生3学期よりも0.5ポイント増加している。
- C層の児童が5年生3学期よりも0.4ポイント減少している。
- ◎ D層の児童が5年生3学期よりも3.3ポイント減少している。

【結果から明らかになった成果・課題】

- 全ての項目で市の平均を2.0ポイント以上上回っており、『教科総合』『基礎』どちらも平均正答率が50%を超えた。また、どの領域も市の平均正答率と同じもしくは上回っており、5年生3学期と比較すると、A層・B層の割合の合計は増加している。習熟度別指導（6展開）で行っている算数科の学習により、児童の実態に合わせた授業展開を行っていることが、効果的であると考えられる。
- しかし、正答率が40%までの児童が全体の20%程おり、既習事項の確実な習得が課題となる。今後も繰り返し基礎・基本の問題に取り組んでいきつつ、文章問題にも触れさせ、しっかり問題を読み取り、既習事項を使って、問題を解く練習をしていく必要がある。

【算数科における普段の取組み】

- 学習の進度に応じて、既習事項の定着を図るために、プリントを活用したりミライシードやメクリカ等の学習支援ソフトを使用したりしている。
- 授業を行う際に、単元の学習に関連性のある既習事項前を確認する時間を設け、学習をすすめられるように、単元計画や授業展開を工夫している。

●【R8 12月9日（水）の学力調査に向けた、ぐんぐんタイムの取組（算数科）】

12月9日（水）に実施される学力調査では、前回の学力調査の範囲に加えて、11月までに学習した内容も出題される。そのため、web 分析システム SYEN を使用しながら予想問題を作成し、ぐんぐんタイムを活用しながら問題に取り組む。

計算	文章題
① 次のかけ算をしましょう。 (1) 587×65 (2) 259×94 (3) 617×84 (4) 494×78 (5) 113×58 (6) 721×59 (7) 325×52 (8) 918×86 (9) 547×87 (10) 974×87 (11) 237×89 (12) 598×34 	① 1つの式に表して、答えを求めましょう。 (1) 12本のペンのセットが4セットと、あと2本のペンがあります。このペンを1人に5本ずつ配ると、何人に配ることができますか。 式 () 答え () (2) 1こ90円のみかんと1こ150円のリんごをそれぞれ4こずつ買って、1000円を出しました。おつりはいくらですか。 式 () 答え () ② 右のねだん表を見て答えましょう。 (1) 下の式は何を表していますか。④、⑤にはあてはまる言葉を、⑥にはあてはまる数を書き入れましょう。 ねだん表 かき…120円 なし…160円 箱代…50円 120×5 + 160×8 〈しょうさんの考え方〉 $\frac{120 \times 5}{\text{⑥}} + \frac{160 \times 8}{\text{⑤}}$ は、 ⑥を5と⑤を8に買ったときの代金を表しています。 ⑥ () ⑤ () ④ () (2) 次の式は何を表していますか。④、⑤、⑥、⑦、⑧にはあてはまる言葉を、⑨、⑩にはあてはまる数を書き入れましょう。 ① 1000 - 160 × 4 1000円を出して⑥を⑤に買ったときの⑦。 ② () ③ () ④ () ⑤ (120 + 160) × 5 + 50 ⑥と⑦を⑧にずつ買って、⑨に入れてもらったときの代金。 ③ () ④ () ⑤ () ⑥ () ⑦ ()

学力調査の「数と計算」の領域には、小数点を含む計算問題が出題される可能性が高いと予想される。計算方法を再度確認するとともに、誤答として多い小数点の動かし方や、付け忘れ等を含め、問題の実施後には正しく解く方法を確認する。

また、「応用」の中で出題されることが予想される文章問題に取り組む。文章で表されている場面がどのような状況であるのかをイメージし「立式 ⇒ 計算 ⇒ 答え」へと導けるように、問題の実施後には確認をする。

【今後の取組（算数）】

■ぐんぐんタイム

毎週火曜日、金曜日にぐんぐんタイムを国語科で行っている。第4学年、第5学年、第6学年においては、10月から12月まで、定期的に「学力調査ぐんぐん」として設定し、1枚ずつ計4枚の予想問題に取り組む。そして、同じ問題を2クール目にも行い、正答数を記録することで、児童の実態を把握しながら、普段の算数科の授業や少人数算数のクラス編成などに役立てていく。

■ICT 機器の効果的な活用

学習の前後や評価テストの待ち時間等、様々な機会を使って、ミライシードなどの学習支援ソフトを活用することで、自分の苦手な問題に取り組むことで、習熟を図っていく。

6 八王子市：学力定着度調査（国語） 第1回（4・5・6年生） R8年5月13日実施

→ 1学期に実施された学力調査の結果をもとに、成果・課題・対策を掲載します。

【R8年度 4年生 市内学力調査結果 国語科】

教科	教科総合			基礎			応用		
	七小	市平均	差	七小	市平均	差	七小	市平均	差
国語	69.2	66.6	+2.6	76.5	73.8	+2.7	43.4	41.6	+1.8

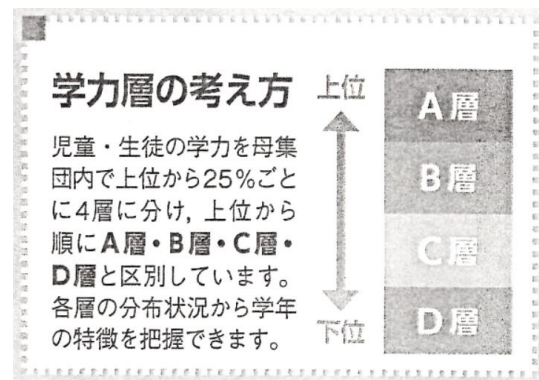
【平均正答率】

- ◎ 『教科総合』では、市の平均よりも2.6ポイント、
『基礎』では、市の平均よりも、2.7ポイント
『応用』では、市の平均よりも、1.8ポイント
上回っている。

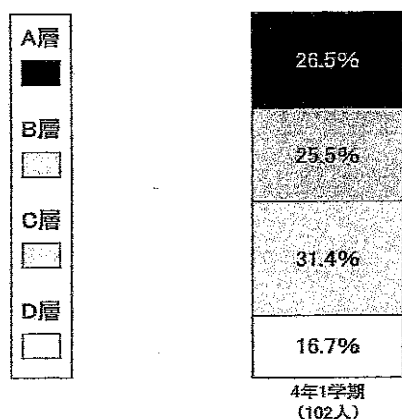
→ 国語科の学習全体的に学力の定着が見られる。

【学力層の推移】

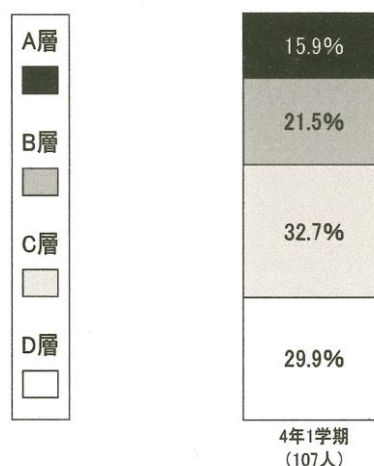
- ※ 4年生は、今回初めての学力調査のため、R7年度の4年生（現在の5年生）の結果と比較した。



R8年度 4年生1学期 市内学力調査結果



R7年度 4年生1学期 市内学力調査結果



- ◎ A層の児童が、昨年度よりも、10.6ポイント増加している。
◎ B層の児童が、昨年度よりも、4.0ポイント増加している。
◎ C層の児童が、昨年度よりも、1.3ポイント減少している。
◎ D層の児童が、昨年度よりも、13.2ポイント減少している。

【結果から明らかになった成果・課題】

- A・B層が共に増加し、C・D層も共に減少しているため、国語科の学力は確実に身に付いている。
今後の課題として、C・D層をそれぞれ上の階層へ引き上げるための取り組みが重要になる。

【国語科における普段の取組み】

- 学習の進度に応じて、既習事項の定着を図るために、プリントを活用したりミライシード等の学習支援ソフトを使用したりしている。
● ぐんぐんタイムを活用して、基礎的な学力向上に努める。
● 授業を行う際に、単元の学習に関連性のある既習事項前を確認する時間を設け、学習をすすめられるように、単元計画や授業展開を工夫している。

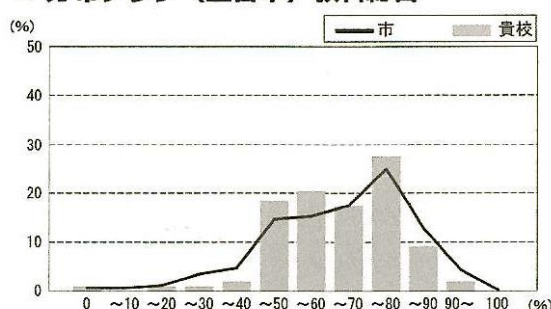
【R8年度 1学期 5年生 市内学力調査結果 国語科】

教科	教科総合			基礎			応用		
	七小	市平均	差	七小	市平均	差	七小	市平均	差
国語	62.7	63.3	▲0.6	68.1	67.4	+0.7	36.0	42.6	▲6.6

【平均正答率】

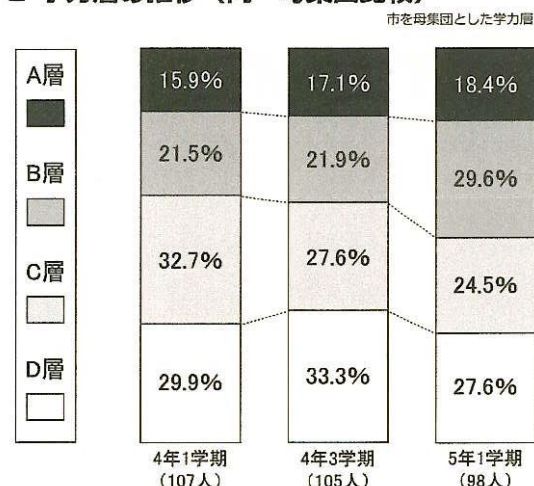
- △ 『教科総合』では、市の平均よりも0.6ポイント下回っている。
- 『基礎』では、市の平均よりも、0.7ポイント上回っている。
- △ 『応用』では、市の平均よりも、6.6ポイント下回っている。
- ➡ 『漢字の書き』においては、市の平均より+7.7ポイント、全国平均より+6.2ポイントであった。『書くこと』においては、市の平均より-5.5ポイント、全国平均より-7.7ポイントであった。

■ 分布グラフ（正答率）教科総合



【学力層の推移】

■ 学力層の推移（同一母集団比較）



- A層の児童が4年生3学期よりも、1.3ポイント減少している。
- B層の児童が4年生3学期よりも、7.7ポイント増加している。
- C層の児童が4年生3学期よりも、3.1ポイント減少している。
- D層の児童が4年生3学期よりも、5.7ポイント減少している。

【結果から明らかになった成果・課題】

- 『基礎』は、市の平均を0.7ポイント上回った。基礎学力の定着を図るために4年生の漢字の復習や音読を通して、言語に慣れ親しむ児童が増えたことが考えられる。
一方、『応用』においては、市の平均よりも、6.6ポイント下回っている。今後は、文章を書くことを繰り返したり、意見文を書いたりする活動を通して、文字制限のある問題の正解を導き出す時間を設ける。

【国語科における普段の取組み】

- ぐんぐんタイムを活用して、基礎的な学力向上に努めている。
- 「話す・聞くスキル」教材を活用することで、言葉やリズムのおもしろさに気づき、伝え合う能力を伸ばしている。
- 音読を毎日させることで、語彙を増やしたり、文の構造を自然に身に付けたり、読む速さを上げたり、黙読の理解度を上げたり、言語の基礎体力を強化している。

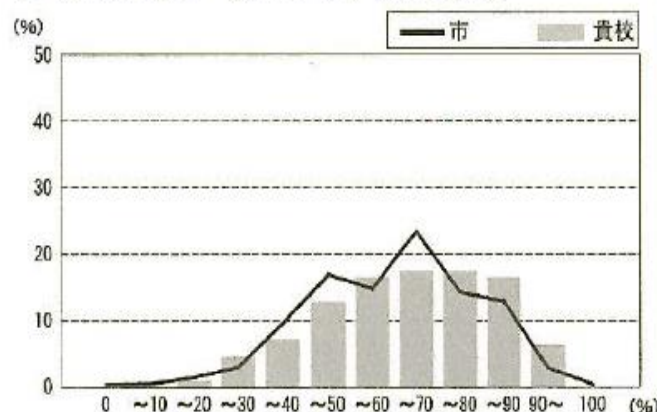
【R8年度 1学期 6年生 市内学力調査結果 国語科】

教科	教科総合			基礎			応用		
	七小	市平均	差	七小	市平均	差	七小	市平均	差
国語	63.5	60.3	+3.2	65.9	63.5	+2.4	50.2	42.8	+7.4

【平均正答率】

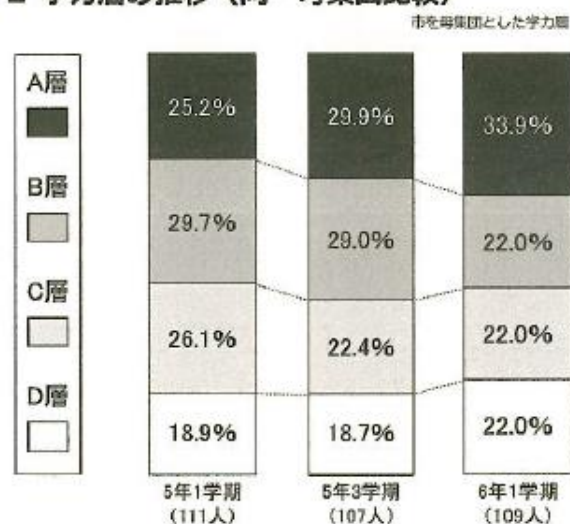
- 『教科総合』では、市の平均よりも3.2ポイント上回っている。
- 『基礎』では、市の平均よりも、2.4ポイント上回っている。
- 『応用』では、市の平均よりも、7.4ポイント上回っている。
- ➡ 全ての項目で本校の平均正答率が市平均を上回っている。

■ 分布グラフ（正答率）教科総合



【学力層の推移】

■ 学力層の推移（同一母集団比較）



- A層の児童が5年生3学期よりも、4.0ポイント増加している。
- ➡ 前回の学力調査においてB層であった児童がA層の児童へと推移していると考えられる。
- △ B層の児童が5年生3学期よりも、7.0ポイント減少している。
- C層の児童が5年生3学期よりも、0.4ポイント減少している。
- △ D層の児童が5年生3学期よりも、3.3ポイント増加している。

【結果から明らかになった成果・課題】

- 『教科総合・基礎・応用』では、全ての項目において市平均を上回っている。
学力層の推移を見ると、A層が増加しており、これはB層がA層へと推移したと考えられる。しかし、D層も増加しており、全体の20%を上回ってしまっている。また、正答率が特に低いのが、「漢字の書き」であった。漢字の学習や読書の時間を確保して、語彙や言葉の知識量を増やしていく。

【国語科における普段の取組み】

- 学習の進度に応じて、既習事項の定着を図るために、プリントを活用したりミライシードやメクリカ等の学習支援ソフトを使用したりしている。
- 授業を行う際に、単元の学習に関連性のある既習事項前を確認する時間を設け、学習をすすめられるように、単元計画や授業展開を工夫している。

【R8 12月9日（水）の学力調査に向けた、ぐんぐんタイムの取組（国語科）】

12月9日（水）に実施される学力調査では、前回の学力調査の範囲に加えて、11月までに学習した内容も出題される。そのため、web 分析システム SYEN を使用しながら予想問題を作成し、ぐんぐんタイムを活用しながら問題に取り組む。

漢字		言葉	
① 春のえんそく。 ② としよしつをそうじする。 ③ くだものをうる。 ④ なべにふたがびったりあう。 ⑤ 大きな声ではっきりという。 ⑥ すいようびにプールへ行く。 ⑦ 本をかう。	⑧ 朝のはちじになった。 ⑨ かみで髪をかく。 ⑩ かん字をおもい出す。 ⑪ どうきょうにすんでいる。 ⑫ 月がにしにすむ。 ⑬ りょうりがすきた。 ⑭ 遠くのくにへ行く。	① 次の言葉は、和語・漢語・外来語のどれに当たりますか。 □ に書きましょう。 ② 次の言葉は、和語・漢語・外来語のどれに当たりますか。 □ に書きましょう。 ③ 次の言葉は、和語・漢語・外来語のどれに当たりますか。 □ に書きましょう。 ④ 次の言葉は、和語・漢語・外来語のどれに当たりますか。 □ に書きましょう。	和語・漢語・外来語 ● 和語：日本で古くから使われている言葉。 例：食べ物・昼のし・やて ● 漢語：漢字を音読みで表す言葉。 例：食物・昼食・旅館 ● 外来語：日本語の中に入ってきた外国の言葉。 例：フード・ランチ・ホテル

「言葉・情報・言語文化」の領域で漢字や熟語の問題が出題されると予想する。そのためぐんぐんタイムや日々の学習では、新出漢字や既習した漢字の読み書き問題、熟語の構成、主語述語の対応を出題することで、二つの領域を網羅していく。

「漢字の読み書き」と「主語述語の対応」の問題に苦手意識をもつ児童が多いため、漢字は間違えた問題を繰り返し書いて覚えるように促す。また、主語述語の対応は、授業の時間以外にも、ぐんぐんタイムにおいて新出漢字の学習をしている際にも出題し、言語の習得を図っていく。

【今後の取組（国語）】

■ぐんぐんタイム

毎週火曜日、金曜日にぐんぐんタイムを国語科で行っている。第4学年、第5学年、第6学年においては、10月から12月まで、定期的に「学力調査ぐんぐん」として設定し、1枚ずつ計4枚の予想問題に取り組む。そして、同じ問題を2クール目にも行い、正答数を記録することで、児童の実態を把握しながら、普段の国語科の授業にも役立てていく。

■ICT 機器の効果的な活用

学習の前後や評価テストの待ち時間等、様々な機会を使って、ミライシードなどの学習支援ソフトを活用することで、自分の苦手な問題に取り組むことで、習熟を図っていく。